うひはたぶみ（初機踏）

H.A.M.A.木綿庵だより
第１１号
2017(平成29)年11月26日
(編集発行 梅田正之 090-5042-7775)

心躍る思い　― 全国コットンサミット in かこがわ ―

綿の栽培をはじめて、今年でちょうど１０年になります。初めて自宅の畑に綿種を蒔いたのは平成２０年(2008)でした。現在の栽培規模は、和綿１００株、洋綿５０株ほどです。

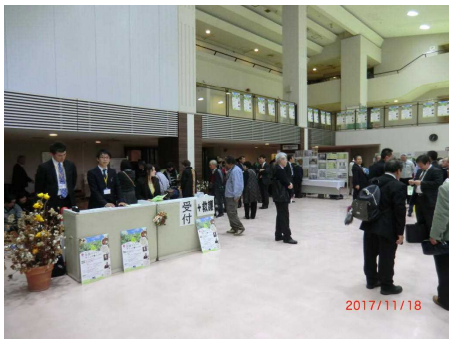
栽培を始めるにあたって、種は３つのルートから入手しました。一つは、奈良県の榛原(はいばら)で綿を栽培されていた方から分けていただいたもの。一つは、大和高田市で開催（大和高田商工会議所にぎわい大和高田推進課）された綿花の収穫体験セミナーで分けていただいたもの。そしてもう一つは、日本綿業振興会から購入したものです。入手できた種は、和綿(アジア綿系)と洋綿(アメリカ綿系)です。

和綿については、榛原の方から分けていただいた種を植えました。過日、ご当人に確認させていただくと、その種のルーツは、大阪府岸和田市で綿の栽培をされていた方から分けていただいたもの、とのことでした。以来私の畑では１０年間、その種から収穫した種を毎年用いてきました。

洋綿については、榛原の種、大和高田市の種、日本綿業振興会の種を植え、同じように栽培を繰り返してきました。栽培する上では洋綿をひとくくりとして扱ってきましたので、今となっては洋綿の種のルーツを特定することはできなくなってしまいました。

今回、あらためて種の入手先をここに明記することにしたのは、１０年目を迎えてようやく品種そのものに目が向くようになってきたからです。これまでは、和綿と洋綿の区別が出来、収穫できればそれで良しとしてきました。ところが、同じ和綿でも、日本各地の和綿の実綿(みわた)に触れてみると、明らかに手触りが異なることに気がつきました。各地の実綿に触れることができるようになったのは、１０年の積み重ねの結果としてのネットワークのおかげです。たとえば、木綿庵の綿と伯州綿(鳥取県境港市)とでは、同じ和綿でもまったく別物の印象を受けます。「河内木綿はたおり工房」(大阪府東大阪市)さんの綿や、「(株)棉屋」(兵庫県姫路市)さんの姫路木綿は、伯州綿とよく似ていますが、きめの細かさが微妙に異なるように感じます。同じアジア綿系でありながら、これほどまでに質感が異なるのはなぜなのか。栽培方法なのか、土質なのか、あるいは気候風土なのか、遺伝子なのか…。

先日(平成29年11月18日)、兵庫県加古川市で開催された「全国コットンサミットinかこがわ」に参加してきました。初参加です。コットンサミットとは、「綿花栽培や綿製品製造に携わる皆さんが集い、取組をPRすることで多くの人に綿の魅力を知ってもらう『コットン(綿・わた)』をテーマにしたイベントです。2011年(平成23年)に岸和田市で第１回を開催し、今回、加古川市で第６回目となります。」(大会チラシの案内文より)。日本各地で綿の栽培に取り組んでおられる方との交流、情報交換は、何よりも有意義で心躍る思いがしました。



コットンサミット本大会 会場受付

「木綿庵さんの綿は、和綿にしては繊維長が長く、しかも弾力性に富んでいますね」。栽培のプロからいただいた一言は、品種に対する関心をさらに高めてくれることになりました。

Monthly Data

【天理やまのべ木綿庵】(問い合わせ件数 平成29年10月26日～平成29年11月25日)
静岡県１、愛知県１、大阪府２、兵庫県１
【H.A.M.A.木綿庵】(平成29年9月26日～平成29年10月25日)
メールを含む各種相談件数４、綿畑や作業場の見学を兼ねた事前申込済来庵者数１件２名

〈コットンサミットinかこがわ　平成29年11月18日〉

午前9時15分に加古川市役所前広場に集合。午前中は市内志方町大沢地区にて、農事組合法人志方東営農組合主催の「綿まつり」に参加。綿畑の見学と、綿の栽培状況や綿人事業についての説明を受ける。午後は加古川市民会館にてサミット本大会に参加。並行してロビー、会議室等に物販、展示、体験コーナーが設けられ、一般市民も多数来場されていた。午後６時より加古川プラザホテルにて交流会。午後８時閉幕。**写真左：綿畑見学、中：会場入口、右：物販コーナー**

〈木綿庵 収穫祭2017 ― 綿摘み＆草木染め体験 ―　平成29年11月3日〉

午前11時より１号畑にて開催。最初に参加者全員で綿摘み。希望者には綿繰り、糸紡ぎの要領をを説明、体験していただきました。その後、「草木染め体験」を実施。今回はカリン(花梨)の葉、クサギ(臭木)の実、セイダカアワダチソウの花穂を染材に用いて草木染めを行いました。

【綿の加工の作業記録】　（梅田１人の作業量）

・糸車を用いての糸紡ぎ量　（洋綿）

10月26日～11月25日（作業実日数28日）　糸の総量105.4ｇ（28.11匁）　総時間314分（5時間14分）

※1分間≒0.336ｇ　1時間≒20.1g（5.4匁）

【研修等の記録】

・平成29年10月29日「相楽木綿伝承館：機織り教室中級⑥筬通し」（京都府相楽郡精華町）受講
・平成29年11月03日「H.A.M.A.木綿庵・収穫祭―草木染め体験」実施
・平成29年11月05日「相楽木綿伝承館：機織り教室中級⑦織り付け」（京都府相楽郡精華町）受講
・平成29年11月10日「相楽木綿伝承館：機織り教室中級⑧織り付け」（京都府相楽郡精華町）受講
・平成29年11月18日「第６回全国コットンサミットinかこがわ」（兵庫県加古川市）参加

【以下の写真は、草木染めの様子。左：染材の計量、中：木綿布の前処理、右：後媒染。】